



## オーストラリア直送レポート

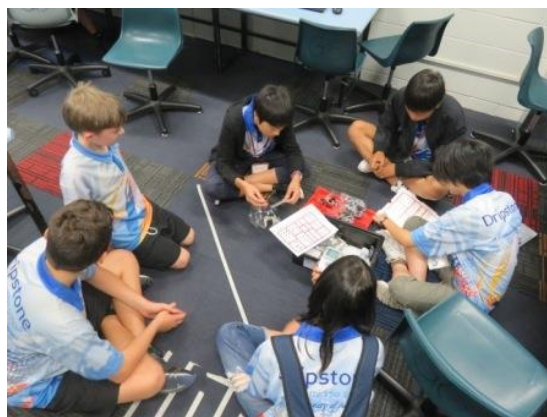
**Vol.3** 2015.8.15 登校2日目

●ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課・林  
吉備中学校・田中

●パーマストーン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課・松場  
金屋中学校・中

### ドリップストーン校グループ

(林) DS校登校2日目の朝を迎えました。オーストラリア、ダーウインの気候は日中はとても乾燥しており、照りつける太陽でとても暑いですが、明け方はかなり肌寒く感じます。気温差が激しいので、研修生達の体調が気になりながらDS校に向かいました。DS校に着くと学校側が用意して頂いている研修生専用の部屋に向かいました。部屋の中には、研修生達の荷物はありますが姿が見当たりませんでした。しばらくすると、研修生達が現れたので「どこに行っていたの？」と尋ねると、「新しくできた友達と話したり、写真を撮っていた」との答えがありました。私の心配をよそに、研修生達は元気で、同世代と新しい友人をつくりたくましく過ごしていました。そんな研修生達の姿を見ていると、頼もしさを感じ今日の研修も実りあるもの出来るよう私もサポートしようと思いました。今日は、昨日に引き続き2つのグループに分かれて午前中に日本語の授業、プログラミングの授業、美術の授業に参加しました。プログラミングの授業には、私自身興味がありました。なぜならニュース等で日本でも小学校でプログラミングの授業が始まると耳にしていたからです。実際に見学させてもらうとプログラミングの授業では、DS校生がレゴブロックの様な物で出来た車(自分たちで組み立てた車)にUSBケーブルを接続し、PCで車に搭載されたセンサーと連動して動く様にプログラミングを行っていました。このような授業は、有田川町の中学校で行われていないので驚きました。DS校生に難しくないかと尋ねると、PCに慣れているのでそこまで難しくないとの答えが返ってきました。私が中学生時代



(約20年前)にはPCは身近なものではありませんでした。研修生達は、生まれた時からPC、タブレット、スマートフォンなどのIT機器が身近に存在していました。私よりも研修生の方が、遥にスマートフ

オンなどのIT機器をつかいこなしていると思います。そういう環境の面では、DS校生と研修生達は同じだと思います。しかし、片方はプログラミングを使用して新しいサービスなどを作る方法を知り、一方は提供されたサービスを利用するだけだということです。このような事が、海外でイノベーションが多く起こる要因の一つだと思いました。研修生達もDS校生に教えてもらいながら、一生懸命新しい物を吸収しようとしていました。日本語の授業では、研修生達が先生になってDS校生に日本語を、DS校生が研修生に英語を教え合う授業でした。その中で、英語の早口言葉に挑戦する場面がありました。担当の先生から、挑戦する人はいますかとの問いかけがありました。今までは、授業に参加しても自ら進んで発言することが、少なかった研修生達でしたが、今回は違いました。何人も研修生達が挙手して挑戦しました。この研修生達の積極的な姿勢に、嬉しくなりました。また、折り紙を通して、DS校生とさらなる交流を図ることが出来ました。昼食の時間には、多くの研修生達がDS校内にある売店で初めての買い物を行いました。上手く注文して帰るか見ていると、事前研修で行った買い物の場面で使う英文を使って研修生それぞれが欲しい物をスムーズに購入出来ていました。事前研修から熱心に英語のご指導を頂いた、田中先生、中先生に感謝です。さて、昼休みには、研修生のいる部屋には、多くのDS校生が遊びに来てくれ、ある研修生は居ないのかと探しにくる人気ぶりです。これも研修生それぞれが、参加した授業や休み時間、廊下ですれ違った時の対応など本当にいいコミュニケーションが取れている証拠だと思います。明日で、DS校で過ごす半分になります。研修生達の心の風景を読んでいても次は自分から話しかけようなどの文章を多く見ます。その意気込みで、どんどん積極的にコミュニケーションを取ってほしいと思います。



(田中) 今日は、日本語を習う授業やインドネシア語の授業など昨日よりもしっかりと英語を聞き活動する授業に参加させて頂きました。近くに座っているオーストラリアの皆さんと、教え合う姿もあり頑張っていることが分かりました。きれいな英語を使おうとするばかりでなく、なんとか伝えようと頑張っている姿が嬉しいです。手を挙げて発言できる子も多かったです。オーストラリアの生徒さんに促されて、先生の問いかけに答えようと頑張っている子もいました。まだまだ、力を余しているように思いますが、控室や廊下、授業の終わった教室で、いろいろな子たちと触れ合っているような気がします。初めて、お昼ごはんや飲み物を買って売店にも行きました。1人1人が自分の食べたい物を英語を使って買っている事もチャレンジでした。持たせてもらったお弁当や果物とで楽しい昼食でした。食欲もあるようですし、体育の授業であれだけ走りまわるのがみたら明日も楽しみです。林さんが話して下さった浅草寺のダーウィンと日本の悲しい歴史も心にとどめて、明日はダーウィンの町もしっかり見てほしいと思います。続けて自分たちが吉備中学校や有田川町の顔として、日本人の代表としてこの研修で出会う人々と接していく自覚を持つという反省を全員でしました。昨日より綺麗にして控室をでれたところを見ると、今日よりも明日は、もっと彼らに期待できるなと思っています。



## パーマストン校・ローズベリー校グループ

(松場) 8月15日 天気晴れ、最高気温32℃ 日本を出発して3日目、本日はローズベリー校(ミドルスクール)で、一日授業に参加する予定。引率者は7時15分にホテルを出発して7時45分にパーマストン校に到着する。到着後すぐにミーティングを実施、研修生たちの到着を待つ。8時過ぎ研修生が全員集合する(直接ローズベリー校に送迎された4名を除く)、すぐに目的地に向けてスクールバスで移動する。今朝の朝食を尋ねると、『食パン2枚とコーンフレーク』『メッチャ量が多いけど全部食べた』などと答える。8時13分ごろに到着する。ローズベリー校集合の4名も無事到着している。全員の体調を確認すると、元気そうな様子である。昨日分の”心の風景”を全員から回収する。本日の予定を伝えると、研修生それぞれの反応があり、『楽しみ!』と言う子や、不安そうな表情を見せる子もいる。本日同行する、ローズベリー校の生徒会(9名)の子ども達から歓迎のあいさつを受ける。その後すぐに3グループに別れて授業に参加する(8時30分〜)。担当が参加したのは経済とビジネスの授業。授業スタイルは個別学習中心。教室内では課題を与えられた生徒が自主学習しており、都度、子どもを一人ひとり別室に呼んで個別に先生が対応している様子。様々な人種が入り混じり、教室を自由に歩き回る子ども達や、イヤホンで音楽を聴いている子など、事前研修で学習した通りの教室内。研修生(4人)たちは、現地の子どもたちからプリントを渡され、課題に取り組む。始めは研修生達の授業参加に落ち着かない様子の教室であったが、15分ほどすると落ち着いた様子になる。研修生に興味を持っている現地の子ども達が入り替わり立ち代わり、研修生の周りに集まる。英語が分からず、辞書を机の上に出して調べながら戸惑っている様子の研修生たちが印象的。50分ほどで授業は終了する。研修生に感想を尋ねると、『(英語が)全く分からん、』『思考停止した』などと答える。午後1時30分まで、体育や化学実験、歴史の授業に参加する。その間、休憩時間が2度あり、校内の食堂で、サンドイッチやマフィンなどの軽食を摂る。休憩時間は、Eメールアドレスを教えてもらったり、プレゼントを渡したり、バスケットを一緒にしたりして現地の子ども達との交流の場となる。研修生達の表情も、教室の授業に参加していたときとは違って、笑顔が見られる。学校を離れる時には、『また来たい、次いつ来るの』『楽しかった』などと話す研修生。同世代の子ども達の良い交流の機会になった事を感じました。午後2時、パーマストン市役所を訪問して歓迎会に参加。プレゼントの交換などを行う。その後、パーマストン校に移動して各自解散(ホストファミリーに引き渡す)となる。

人種、文化、言葉などの違いを感じつつ、現地の子どもたちから話しかけられたり、勇気を出して話しかけたり、またはバスケットなどのスポーツを一緒にしながら交流できた一日となりました。



(中) 研修3日目、パーマストシニアカレッジからローズベリーミドルスクールへ移動をし同世代の皆さんと授業を一緒に受けました。3グループに分かれての授業に最初は戸惑って話しかけることも出来なかった人もランチの頃には自分から話しかけたり、一緒にバスケットをするなど積極的に自分から交流できるようになっていました。また今日の朝に、「今日は5人に話しかけてみよう。」と言うと「何を言ってるか分からんし、無理やー。」という風な声が最初に聞こえましたが、下校時には「5人は楽勝やったわ。」や「次はいつローズベリーに来れるの？」という風な前向きな感想を聞く事ができました。昨日とは違って、実際に同世代の子ども達と触れ合い言語も文化も超えた交流をし、理解し、そしてそれを楽しめたという素晴らしい経験を得た1日だったことと思います。

